

# 学ぶ力を身につけるためのスキル Ver. 1.0

	発信する	処理する	受け止める		
言語	受け手に伝わりやすい表現を工夫して発信する。	伝えたい内容を表現の仕方とあわせて組み立てる。	受け止めた内容の意味を、自分の表現に書き直す。	発信者の想いや意図を想像する。	言葉や記号などの意味を確かめながら受け止める。
情報	身の回りや社会をよりよくすることを狙って発信する。	発信したい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	集めた情報の内容を、自分の表現に書き直す。	情報の内容を比べて、よりよいものを選び出す。	どのような情報が必要かを考えて収集する。
解決	課題をよりよく解決できる内容で提案する。	よりよい内容が提案できるように、表現の仕方とあわせて組み立てる。	課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。	解決方法について、複数の見通しをもつ。	問われている課題をどのように受け止めたのか表現する。

「言語」とは、言葉だけでなく、地図の記号、数字、図形、数式で用いられる記号、化学記号、音符、色、トーン、ピクトグラム、身体表現、眼差しなど、非言語コミュニケーションの要素を含むあらゆるコミュニケーションツールをさしている。

## 学ぶ力を身につける

同じ学習内容でも、どのように受け止め、処理し、発信するかによって、学びの質は大きく変わります。

「受け止める・処理・発信」のそれぞれの段階で、生徒にどのように学ぶかについて、目指してほしい方向を示しています。

### これから始めたいことは…

#### “学ぶ力”を育てるために

単元で最も重要な「**学ぶ力を身につけるためのスキル**」を生徒と確認して学習に取り組むことで、どの教科にも共通して必要な「学ぶ力」の育成を目指します。

#### 学びのプランを生徒とともに

教科ごとに特色ある単元デザインを考えて、どのようなゴールに向かって学ぶのかやゴールまでのプロセスを「**学びのプラン**」として学習者と共有できるように工夫します。

#### “受け止める”を大切に生徒

学習のさまざまな場面での「**受け止める**」を意識し、「何を、なぜ学ぶのか」について考えながら学習を進めます。学習の結果だけでなく、そのプロセスを大切にします。

### なぜ学校で学ぶのか

松田町立松田中学校 校長 岩井隆豪

教師が生徒に知識や技能を教え込むような授業では、これからの時代を生きるのに必要な資質・能力を身につけるのが難しくなりました。そして、コロナ禍をきっかけに、「なぜ学校で学ぶのか」があらためて問われています。私たち教師に求められているのは、生徒が向き合いたくなるような問いを生み出し、その解決を目指して生徒が力を発揮できるように導くことです。一方、生徒は受け身の姿勢で学ぶのではなく、「なぜ学ぶのか」を意識し、みんなで力を合わせて問いの解決に取り組むことが大切です。

よりよい授業をつくるために教師と生徒が共に考え、学び続けることができる松田中学校の実現のために、これからも意欲的に授業改善に取り組んで参ります。

### 一歩先を見る眼を

授業改善アドバイザー 三浦修一

「授業の主役は生徒」という考え方が共有されるようになったのは、ここ数年のことです。1947年以降、学校では「3R's」が大事にされてきました。それが「戦後の経済成長」を支える原動力の一つであったことは誰もが認めることです。けれど、時代が大きく変わったのに、学校だけが変わっていないのではないかという批判が強くなりました。ではこの先、何を指すべきでしょうか？一つは「4Cs」です。そしてもう一つは、インクルーシブの根底にあるべき、ダイバーシティです。「いい成績」という単一の目標ではなくて、一人一人が認められる学校です。そういう次の時代のあり方を考えるヒントが、松田中学校にはありませんか？私はそう信じています。